



小学校高学年向け

年組

高齢者見守りなど想定

ここ数年、記録的な猛暑に見舞われている佐野市は17日までに、気候変動適応法に基づき、高齢者などの見守りや声かけなどに取り組む「熱中症対策普及団体」の募集を開始した。市は当面、5団体程度の指定を目指しており、民間も含む73カ所の「指定暑熱避難施設」（クーリングシェルター）と合わせて、総合的な熱中症対策として推進していきたいとしている。

（3面に関連記事）

同市によると、2025年の35度以上の猛暑日は前年比6日増の49日となり、県内過去最多を記録した。最高気温も8月5日には40・2度と、県内観測史上最も高かった24年7月29日の41・0度に迫った。

今年も先月11日には、全国でも2番目の暑さとなる29・7度を記録している。気象庁が新たに名付けた最高気温40度以上の「酷暑日」レベルの気温の頻発も懸念される。

25年5〜9月、市内では87件の熱中症による救急搬送があった。熱中症対策の強化が求められる中、同市は官民連携による取り組みの拡充が必要と判断した。

熱中症対策普及団体は申請を受けて市町村長が指定する。対象となるのは一般社団法人や一般財団法人、

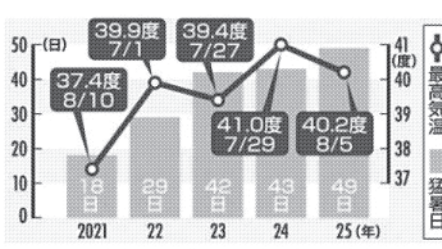
NPO法人、社会福祉法人、株式会社など。①市内の事業者や市民への啓発・広報活動②市民からの相談の対応や必要な助言③その他、対策の推進に必要な業務―に取り組むという。

同市は具体的な取り組みの一つとして、例えば、通常の業務として高齢者宅などに直接出向くような機会が多い福祉関係の団体などには、安全の確認や必要な声かけを行ってもらうこと（久保正洋）

を想定している。研修機会の提供も検討していく。環境省によると、25年度の調査で、全国では9自治体で24団体が指定されているという。本県では高根沢町が1団体を指定していたが、当該法人の申し出により解除されている。

同市は1日から募集を開始している。負担感を懸念する声もあるが、市気候変動対策課は「特別な何かをやるということではなく、普段の取り組みの中でできることを中心に考えてもらえば」と呼びかけている。

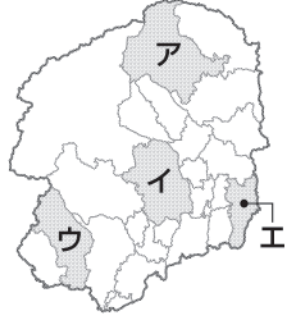
2026年5月18日付
下野新聞1面



設問

【1】佐野市が新しく募集を始めた「熱中症対策普及団体」の活動内容として、記事の中であてはまらないものはどれでしょうか。

ア 市民や事業者への熱中症対策の啓発・広報活動
イ 熱中症になって倒れた人を、病院まで救急搬送する業務
ウ ふだんの業務で高齢者の家をたずねた際の声かけや安全確認
エ 市民からの熱中症に関する相談への対応や助言



【2】「熱中症対策普及団体」の募集を始めた佐野市は、次の地図のA、E、I、Uの市町のうち、どれでしょうか。

正しいものを選びましょう。

【3】記事にあるグラフを見ると、佐野市の「猛暑日（35度以上の日）」の日数は、2021年から25年にかけてどのように変化していますか。正しいものを選びましょう。

ア 猛暑日の日数は毎年まったく同じで変化はない。
イ 毎年続けて増えており、25年は49日と過去最多になった。
ウ 23年をピークに、その後はだんだん減ってきている。
エ 年ごとに増えたり減ったりして、全体としては変わっていない。

【4】佐野市はなぜ、市役所だけでなく「民間の団体や企業」と協力して熱中症対策を行おうと考えたのでしょうか。記事の内容から読み取れる理由を説明しているものはどれですか。

ア 猛暑日や熱中症の救急搬送が増える中、ふだんから高齢者の家を直接訪問する機会が多い福祉関係などの民間団体と協力すれば、より細かく見守りや声かけができると考えたから。
イ 市役所で働く人が足りなくなってしまう、熱中症のパンフレットを作る予算を民間企業に出してもらったから。
ウ 佐野市にはクーリングシェルター（指定暑熱避難施設）が1カ所もないため、民間企業に新しく建物を建ててもらうため。
エ 環境省から「民間団体をたくさん指定しなさい」という強い命令が出されており、それに従わなければならないから。

【5】この取り組みに対して、民間からは「負担感が心配」という声がある一方で、市の担当者は「特別なことをするのはなく、普段の取り組みの中でできることを」と話しています。このような意見の違いが生まれるのはなぜでしょうか。それぞれの立場を考えて説明しているものはどれですか。

ア 民間側は研修を受けたいと思っているのに、市側が研修の機会をまったく用意しようと思わないから。
イ 民間側はもっとたくさんのお金（補助金）がもらえると期待していたのに、市側が「ボランティアでやってほしい」と拒否したから。
ウ 民間側は最高気温40度以上の「酷暑日」だけ活動したいと言いつつ、市側は毎日活動してほしいと求めているから。
エ 民間側は「仕事や責任が新しく増えて大変になる」と心配し、市側は「今ある見回りのついでに声をかけてくれれば十分」と考えているため、お互いのイメージにズレがあるから。

【6】もし、みなさんが住む地域で「熱中症対策普及団体」を新しく集めるとしたら、どのようなお店や業者に協力を頼むと、地域の熱中症対策に効果的だと思えますか。頼みたいお店や業者と、その理由を説明してみましよう。